

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	令和3年度第1回 近江八幡市子ども読書活動推進委員 会議		
開催日時	令和3年6月24日（木）15:15～17:00		
開催場所	文化会館 会議室2		
出席者 会長◎ 副会長○	<子ども読書活動推進委員> ◎市島委員 ○工藤委員 宮治委員 熊木委員 森恒委員 浅居委員 <説明者・事務局> (挨拶) 東生涯学習課長 (事務局) 国本生涯学習課指導主事、清水主任主事 (担当者) 森田幼児課副主幹 堀田学校教育課指導主事 前田学校司書 森村学校司書 大澤学校司書 辻学校司書 世古近江八幡図書館主査		
次回開催予定日	令和3年9月下旬～10月上旬		
問い合わせ先	所属名・担当者名： 近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 国本 電話番号：0748-36-5533 Fax番号：0748-36-5565 メールアドレス： 045000@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・要約	要約した理由	

事務局	<p>1. 開会 (1) 開会あいさつ 定刻になりましたので、今年度の第1回近江八幡市子ども読書活動推進委員の会議を始めます。 私は事務局を担当いたします、生涯学習課の国本です。よろしくお願いいたします。 皆様におかれましては、平素より近江八幡市の子どもたちの読書活動推進において、各方面でご尽力いただきありがとうございます。 会に先立ち、生涯学習課長 東 がご挨拶申し上げます。</p>
生涯学習課長	<p>(2) 挨拶 「第1回子ども読書活動推進委員会」を開催するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。 平素より、本市教育行政にご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。日頃は、子ども読書活動の充実に向けて様々な方面でご尽力いただき、ありがとうございます。 さて今年度で3年目になります「第2次近江八幡市子ども読書活動推進計画」は、毎日続ける読書活動、読書を通じて様々なことを学ぶ活動を大切にしたいという思いで取組を進めていきます。 平成17年から本市で取り組んでいる「早寝・早起き・あき・し・ど・う」運動の中に、読書は位置づけられています。心と言葉を豊かにする読書活動が子どもの成長に大切なものであると考えております。 本日は、「第2次近江八幡市子ども読書活動推進計画」における進捗状況の確認、そして11月の市民読書月間にむけた具体的な取組の検討を行います。様々な方面からご意見をいただき、子どもたちが本を手取るような取組ができればと考えております。 今後とも、皆様には、近江八幡市の子どもたちが読書を通じて新しい世界と出会い、心を豊かに育むために、なお一層のお力添えを賜りますことをお願い申し上げます。まして私の挨拶とさせていただきます。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。課長は、公務のため退席いたします。</p> <p>(3) 自己紹介 次に、ご出席の皆さまに自己紹介をお願いいたします。 市島委員から順番をお願いいたします。</p>
市島委員	<p>皆さん、こんにちは。日頃は中学生を対象としたブックトークの出前授業を行っております。ですけれども、現在コロナ禍でありますので、ほとんど依頼が舞い込んできておりません。でも依頼が舞い込めば、私はいつでもどこでも行こうと思っております。あとは、図書館活動に関する仕事をしております。時間があればいろんなところに研修に行きますし、子どもたちが健やかに成長していくためにはやはり読書って大切なんだねというお話を話しています。どうぞ一年間よろしくお願いいたします。</p>
工藤委員	<p>おはなし研究会の工藤雅子と申します。日頃の活動というと、図書館でおはなし会をしております。また4か月検診のときにお母さんに絵本の紹介をしております。現在はコロナということで、いろんな活動ができない状況にもあります。よろしくお願いいたします。</p>
宮治委員	<p>武佐こども園の宮治と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
熊木委員	<p>岡山小学校の熊木です。よろしくお願いいたします。</p>
森恒委員	<p>八幡中学校の森恒です。よろしくお願いいたします。</p>

浅井委員	八幡工業高校司書の浅井です。よろしくお願いいたします。
森田委員	幼児課の森田と申します。よろしくお願いいたします。
世古委員	図書館の世古です。よろしくお願いいたします。
堀田委員	学校教育課の堀田です。よろしくお願いいたします。
事務局	事務局担当しております、生涯学習課の国本です。よろしくお願いいたします。
事務局	同じく生涯学習課の清水です。よろしくお願いいたします。
森村委員	学校教育課の学校司書の森村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
辻委員	学校司書の辻と申します。安土方面を担当しております。よろしくお願いいたします。
大澤委員	学校司書の大澤と申します。よろしくお願いいたします
前田委員	学校司書の前田弘美と申します。よろしくお願いいたします。
事務局	<p>ありがとうございました。本日の出席者は16人となっております。半数以上の出席ですので、近江八幡市子ども読書活動推進委員会設置要綱第6条第2項に関する取扱要綱により、本会議は成立しております。公開に関する取扱要綱により、本会議は公開され、会議終了後近江八幡市HPに議事が掲載されますことをご了承ください。また、本会議内容を録音いたしますので、ご承ください。あわせて記録用に写真を撮影をいたしますが、不都合がある方がいらっしゃいましたら、お申し出ください。</p> <p>では本委員会委員長の市島委員長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
市島委員	<p>昨年度に引き続いて委員長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>この4月より近江八幡市においては図書館車が運行しております。皆さんもすでにご存じかと思うのですが、ひょっとしたら遠くからお越しの方につきましては、「なかなか図書館車を見る機会がないわ」という方もいてくださるかと思えますけども、本当に図書館車は見る人の気持ちをふと明るくしてくれるような鮮やかな黄色です。そこに市内在住の作家さんである林先生の絵が添えられていて、これがまたとても夢ある絵で、いいなあという気持ちに全員をさせてくれること間違いなしの図書館車です。その図書館車が来ると、多分どこの学校の子どもたちも「わー」と言う歓声をあげるんじゃないかと思っています。この図書館車は市内の端っこに住んでいる者で日ごろから図書館にまでなかなか足を運べないな、ちょっと距離があるなと言う人たちのために地域の端っこまで本を届けるという意味を込めて、市内在住の小学生が命名してくれました。それが「はちっこぶっく号」と言う名前に込められているそうです。私も4月、5月、6月と毎月楽しみに利用しております。私も「子どもたちはどのように図書館車を迎えるのだろうか」とワクワク感いっぱいよせていただきました。するとそこにはたくさん生徒が本を手を取っています。私が着いたときには子どもたちは結構集まっていた。その姿はもう1冊ぐらい借りてくれるのかなあと思い観察していたのですが、1冊ではなくて4、5冊どの子も借りに行くんですね。中には自分が市立図書館に行って借りた本をその場で返している姿もありました。私も声をかけるんですが、「好きな作家さんはいる？」と聞くと答えてくれる子が何人かいました。その作家さんはどこかなあと探す楽しみみたいなものもあって、子どもたちはやっぱり本が大好きなんだろうなあと強く感じました。そういう中学生の心をつかんでくださる司書さんの選書がとても素晴らしくて、私も日ごろからヤングアダルトコーナーの本をたくさん借りるんですけども、その日は借りたい本がたくさんありました。でもメインは中学校の生徒ですので、ぐっと我慢して何も借りずに帰りました。ただそのような中学校の生徒の姿をたくさん</p>

	<p>見ることができて私はとても嬉しくて、これから子どもたちがどんどん本好きになってくれることを願いたいなあという気持ちを強く抱きました。これを受けて私たちのこの子ども読書活動推進委員会としては、今までよりもさらにさらに校園所が連携をして子どもたちのために何ができるのか連携プレーできることを考えていきたいと思っております。そういうことも含めてこれからの会議を重ねるごとにできることを一つ二つ増やしてくれれば良いのかなあとは思います。そういう思いを皆さんにお伝えすることで挨拶に代えさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひします</p>
事務局	<p>それではこれより議事に入ります。当会設置条項第6条第1項の規定によりこの後の進行は市島委員長にお願いいたします。それではお願ひします。</p>
市島委員	<p>それでは皆様、お手元に届いております本日の次第に沿って進めて参ります。まず初めに各指標の進捗状況について担当課より報告をお願いします。まず学校司書の配置の割合について学校教育課さんよりお願ひします。</p>
堀田委員	<p>市内には小中あわせて16校の学校があるんですけども、現在4人の司書さんで回っていただいております。一人当たり中学校1校小学校3校受け持っていてお願ひします。しかし、お一人ご都合で6月いっぱいでお辞めになられますので、7月からは今のところ3人の方で16校を回っていただくこととなります。もしお知り合ひで司書をやってみても良いなと言う方がいらっしゃいましたら、ハローワークのほうに今現在募集をかけているのでお声掛けいただけたらありがたいなと思っております。</p>
市島委員	<p>ありがとうございます。それでは続きまして1か月に1冊以上本を読んだ子どもの割合について学校教育課さんお願ひいたします。</p>
堀田委員	<p>昨年度はこのようなアンケートをとっておりませんので、今年度本市がすすめている早寝早起きあきしどう運動に関わるアンケートを取る年になっているので、秋にこの1か月に1冊以上本を読んだ子供の割合を含めたアンケートを取ろうと考えております。以上です。</p>
市島委員	<p>ありがとうございます。では続いて参ります。家で10分以上の読書を継続している子どもの割合について生涯学習課さんよろしくお願ひします。</p>
事務局	<p>お配りさせていただきましたA4の資料をご覧ください。こちらが今年度県からの調査と合わせて市独自で調査を行いました結果となっております。継続しているというのが何日以上かと言う程度もあるのですが、4年生ですと3日以上継続している子どもが32.1%、1日以上必ず読んでいる子が58%です。5年生は3日以上が33.8%、必ず1日は読書に取り組んでいる子が61.4%、6年生で3日以上読書に取り組んでいる割合が26.9%で、1日以上が53%になります。学年にもよるかもしれませんが、少しずつ学年が上がるにつれて3日以上取り組んでいる割合は減っていくという傾向が見られます。真ん中の表は学区別にさせていただきました。これが小学校から中学校に上がってどのような変容があるのかと言う部分が見られるのかなと思っております。次に中学校別も載せております。中学校1年生で3日以上家で10分以上読書をしている学校が22.1%。必ず1日は読書に取り組んでいる子は43.9%。2年生になりますと3日以上本を読んでいる子が19%、1日以上が35.9%。中学校3年生になりますと3日以上読書に取り組んでいる子が15.1%、必ず1日に取り組んでいる割合が38.5%と言うふうに学年が上がるにつれて3日以上取り組んでいる割合が少しずつ減っているという傾向があります。いろいろな要因があると思います。部活動が始まったとか、小学校以上に家庭での宿題の量が増えたとか、いろんなことがあると思いますが、1つこの調査をしてわかったことは学区別と中学校別を比較したときに、やはり小学校段階である程度読書の習慣がついている子どもたちは中学校に上がっても読書を継続している割合が高いということです。具体的に言いますと小学校の学区別で見て安土学区が読んでいる割合が高いです。中</p>

	<p>学校で比べても安土中学校が 1 番割合として高い傾向にあるということが言えます。他の 3 中学校の割合を見ても同じ傾向が続いているので、中学校に入っていくなり他の学校に比べてポンと上がるという傾向は今回の調査では見られなかったと捉えております。もう少し詳しく結果を分析していくと見えてくるものがあると思うのですが、資料としてお渡ししましたので、これからも子どもの読書の推進の参考になればと思っております。以上です。</p>
市島委員	<p>ありがとうございます。続いて移ります。就学前施設での一人当たりの本の数や冊数について幼児課さんお願いします。</p>
森田委員	<p>きちんとしたデータが取れてないのですが、昨年度絵本貸出しを実施している園の割合が、市内で 34 施設幼稚園、保育所、こども園、小規模施設があるんですけども、34 施設中 19 施設が貸出しを実施し、55.9%の施設が貸出しをしているという結果になっております。昨年度の令和元年と比べますと 69%だったので少し減少している傾向が見られます。聞いていく中でやはりコロナ禍であることから貸出しを止めていると聞いています。ただ、実施している園の中でも全くやめてしまうのではなくて、その分園で手に取れるような環境を工夫したりとか、5才児に関しては少人数ずつ絵本を借りるようにしたりとか園ごとに工夫しながら絵本を借りる取組をされているのも報告として聞いております。</p>
市島委員	<p>では続きまして学校図書館での一人当たりの年間貸出し冊数について学校教育課さんよろしくをお願いします。</p>
堀田委員	<p>昨年度の調査結果ですが、コロナで学校が休校であったりとか図書室への入室の制限があったりとかということがありまして、少し貸出し冊数は減っていました。小学校の一人当たり平均にすると 17.1 冊。中学校は平均すると 2.2 冊という結果になりました。中学生はやはり学校図書館で借りたりするということが少ないという結果になっていますが、今年は「はちっこぶっく号」も学校に行ってもらって学校図書館の本ではないかもしれませんが、すごく子どもたちが借りているという話も聞いているので、本に親しむという意味では親しんでくれるのかなあと思っています。</p>
市島委員	<p>図書館での児童書の一人当たりの年間貸出し冊数について図書館さんよろしくをお願いします。</p>
世古委員	<p>令和 2 年度の一人当たりの年間貸出し冊数ですが、計算しましたところ 15.7 冊と出ました。もう一つ前の令和元年度が 17.1 冊でありました。この現象は先ほど皆様もおっしゃっている通りコロナ禍で閉館していた時期があったり、園への貸出しが激減したということもあったかと思えます。細かい数字で言いますと団体貸出しも含む子どもの手に渡ったであろう年間の貸出し冊数が 228,835 冊です。これを 0 歳から 18 歳までの人口 14,539 人の人数で割った数字が 15.7 冊となります。コロナ禍でかなり落ち込んだかなあと思うのですが、それでもやはり閉館をしていた後、外に出られない時期に土日なんかはかなり親子で本を借りに来る姿が見受けられて、外に出られないので家で本を読む様子が見られ、読書する習慣が割とあったのかなあ図書館としては実感しています。</p>
市島委員	<p>図書館と連携を実施している校園所の割合について幼児課さん及び学校教育課さんお願いします。</p>
森田委員	<p>就学前施設と図書館との連携ということで 3 つの点で調査をしました。1 つ目が図書館に実際に見学させてもらっておはなし会をしてもらったり絵本貸出しをしたか調査しました。そちらについては実施した園が全部で 5 園です。これは割合として 14.7%です。やはりこちらのほうもコロナ禍で難しいということで実施が減っているように思われます。2 つ目に園に来ていただいて行うおはなし会はコロナ禍のため実施の方ができていない状況ですが、それぞれの園ではボランティアさんに</p>

	<p>ご協力をいただいておりますおはなし会を実施している園があると聞いています。3点目に図書館さんからの団体貸出しを利用した園が12園ということで、割合にすると35.3%となっています。園の方から申し出るのですが、各園の方に図書館から50冊ほど貸していただいております。今市内をずっと回っていただいているので図書館車に行くと借りられると車を見るだけで子どもはとっても喜ぶし、それから小規模施設さんのお子様たちにはなかなかそういう機会もないのですごく嬉しいという声を聞いております。</p>
堀田委員	<p>16校にアンケートをとりました。今回4つの連携の方法で聞かせてもらいました。一つはブックトークに来てもらうか行ったか、二つ目はおはなし会に来てもらう、おはなし会のために図書館に行ったか、三つ目は本の団体貸出しを利用しているか、四つ目は図書館への見学をしたのかというのを聞かせてもらったところ、16校中13校は何かしらの連携の活動をしていました。残りの3校も毎年だとやっていますが、コロナのためにブックトークなどできなかったということだったので、例年だと100%連携しているということがわかります。今年はまだ100%に戻ると聞いております。</p>
市島委員	<p>読書活動に関わる研修の実施や研修への参加について幼児課さん学校教育課さんよろしく申し上げます。</p>
森田委員	<p>昨年度は2月に幼児課主催で大船先生に来ていただいて「絵本とわらべうた」という研修会を行って市内の先生方に来ていただきました。各園の方ではなかなか研修が難しい状況ではありますが、人数を減らしておはなし会をしてもらったり、絵本の話の聞くなど報告を聞いております。また今年度でも昨年度に続いて「絵本に囲まれて育つ子ども推進事業」ということで絵本を購入していただきます。2年目と言うことで絵本はずいぶん増えたんですけども、購入された絵本がどのような形で身近に置かれているのかを重点において、今回は環境を整えていこうということで、園で絵本の環境を大事にしていけるような研修会をすることにしました。また決まりましたらご報告させていただきます。</p>
堀田委員	<p>市の方では年に2回、学校図書館教育担当者会を行っております。各校の学校図書館教育担当の先生に集まっております。学校図書館を活用した授業とか司書さんを活用した授業の実践を交流してもらっていることをしています。また、県とか国から来た研修につきましては各校園にお知らせをさせてもらって、できるだけ参加をしていただくように呼びかけをしております。</p>
市島委員	<p>以上で各担当課によりまして報告が終わりました。それではここから協議及び意見交流に入ります。先程の報告を受けて、皆様よりご意見やご質問を賜りたいと思っております。どんな事でも結構ですので、積極的に熱心にお話しいただければと思います。日ごろから子どもたちのそばにいて下さる校舎の先生方につきましては、子どもたちの読書についてお感じになられていることなどあると思っております。その辺のところを聞かせていただいてもいいのかなと思っております。</p>
森田委員	<p>市内のある園から聞いたんですけども、「子ども読書の日」ということで啓発をしていただいて園にポスターとか送っていただいて、園ではそれに合わせて絵本の紹介を保護者さんと子どもたちにして取組をしましてと聞かせてもらっています。この委員会からこうやって進めていることが園にも実際に取り組んでいただいているとお聞かせ頂きました。</p>
市島委員	<p>素敵なお意見ありがとうございます。こういった取組は今年度初めてなんですね。ですからその辺のところもまた小学校さんとか中学校さんとかあるいは高校によってもだいぶ違うかと思っております。今日は司書さんもお越しいただいておりますので、このチラシであったりポスターや先生方向けの冊子であるとか、そういったものを間近に見てくださっている中でどんなふうにご利用していただいているのかなあとか気になりますね。お聞かせ願えればと思います。どうでしょうか。</p>

前田委員	このポスターの試みはとても良くて、子どもたちにビジュアルで入ってくるので、「この本は図書室にあるの？」と聞いてきました。しかし、私が驚いたのは先生方に配られた冊子を見られた先生が「全部読みたくなるなあ」っておっしゃったんです。その中に私が勧めた本があったので「これ面白い本ですよ」と言ったら次の週に行ったら「買ったで一」って言われたんです。そのほんは年数が経って3巻出てくるんですね。それを買ったと先々週おっしゃいました。先週行ったときに「面白いな」っておっしゃったんです。そして今日行ったら、「3巻とも買ったで」とおっしゃったんです。そして、「それを見ていたらその隣に置いてあった本も面白そうだし手に取ったんよー」とおっしゃったんです。1冊の本がそうやってその先生と私をつないでくださった。その先生がまた違う本につながって、私に「その本読んでみて」とおっしゃってくださったんです。すごくいいなあって思ったんです。なので先生はすごく見ていらっしやいます。
市島委員	すごくうれしい報告ですね。
前田委員	「これって図書室にあるの」とおっしゃる小学校の先生もいらっしやいましたし、中学校の先生もお忙しい中見てくださっている先生も「もし自分の学校にあったら読みたいな」と思っている先生もいると思います。
市島委員	そういうことであれば、またその学校さんが図書館の方と連携されて団体貸出しの中にそういった本も借りられて、廊下の片隅にふと提示させていただくと、また次につながる形でいいですね。新しい委員さんもいて下さるかと思いますので付け加えさせていただきますが、国本先生が掲示してくださったポスターは昨年度の委員さんたちにオススメ本を小学校の低学年とか就学前とか高学年など、どうい本がオススメですかとアンケートをとっていただいて、その結果をもとに作られたポスターです。また新たに今年度も加わってくださった委員さんからも、新たな本のオススメもあるかもしれません。また随時今年度もどこかでこういう取組につながる事ができればいいかなと思いますね。
市島委員	国本先生どうですか。
事務局	すごくうれしいです。委員の皆さんに選んでいただいて、それぞれの委員さんの思い入れのある本を教えていただいたので、人によって好みもあって、それがいろんな幅のある子どもたちにとってどこかに引かかると思います。いろんな方からお勧めしていただけたというのはとても良かったなと思っています。私も貼っている様子は小学校や中学校で見て、大体貼ってくださっていてよかったのですが、生の先生のお声を今前田さんから教えていただいたので、すごくうれしく思います。お一人でもそういう方が増えていくというのが1つ大事な取組であると思いますので、また今年度も委員さんからお勧めしていただくのも1つですし、昨年度も少し出ていましたが、におねっとさんの啓発ポスターは県内の高校生がお勧めした本を紹介したりしているので、委員が選んだ本だけでなく、市内の子どもたちが選んだ本を市内の子どもたちで交流するというのもとてもよいと思います。就学前のお子さんでも「あの本好き」とかいうのがあると思いますし、高校生は高校生で今まで読んだ中で1番良かった本っていうのは1冊はあると思うので、子どもの交流の場、子どもが本を通してつながれるっていうのもできるといいのかなと思っています。また委員の皆様のお知恵をいただければと思います。
市島委員	現役の高校生が進める1冊もいいですね。ほか、よろしいですか。
宮治委員	武佐こども園です。7番のところに図書館との連携とあるのですが、今年度武佐こども園は図書取組の5年計画がありまして、その最後の年になっています。移動図書館で月1回毎月第一金曜日に来ていただいている、3月に一回お披露目に来ていただいた時に、子どもたち100何人が拍手喝采でずっとバイバイバイバイと見えなくなるすごく小さくなっていてもずっと手振っていて、「どこどこ行ったら見たよ」「黄色いバス走ってたで」と言ってくれたりします。月に一回の図書館車を

	<p>すごく楽しみにしていて、どの年齢の子どももテラスに出てバスの周りを囲んでいる状態です。実際子どもたちが自分の好きな絵本や子どもたちにぜひ読みたいと思う絵本がたくさんあるんですけども、絵本がたくさん並んでいると、「私この本好き」とか「この本いいよ」と職員間の会話が広がります。図書館さんがお勧めの本を持ってきて下さると、「こんな絵本があったんだ」と勉強になります。「大人自身も絵本の幅が広がる」＝「子供に幅広い絵本を読んであげることができる」ということがすごく素敵だなあと職員間で感じています。私たち大人も手に取れるような本もいっぱいあるので、それも何冊か借りて職員室に並べて、職員がいっぱい手に取っています。そういう機会を移動図書館でいただけるかなと思うので、それをどのように子どもに返していくのかというのが私たちが大事にしないといけないところかなと感じています。すごくいい取組だなあと園でも感じています。</p>
市島委員	<p>ほかいかがでしょうか。 それでは次の協議事項に移りたいと思います。今年度の子ども読書活動推進に関わる具体的な取組について事務局よりお願いいたします。</p>
事務局	<p>本委員会では昨年度から11月の市民読書月間、4月23日の子ども読書の日に向けて読書推進の取組を進めております。昨年度は子どもと保護者と教職員に向けてオススメ本の紹介のポスターや冊子を作成しました。ポスターや冊子の配布だけでなく、子どもたちが本を手に取りたくなるような取組を今年度もう一步進めていくことはできないのかと思っております。昨年度の本委員会でブックトークのビデオ作成を計画しておりました。小学校1,2年生はおはなしの読み聞かせのビデオ、3年生から6年生は各学年にブックトークのビデオ、中学生もブックトークのビデオを作成できればと思っております。小学校の1,2年生に関しましては工藤先生のお力をお借りして、3年生から6年生に関しましては各学年に近江八幡図書館の司書さんがお一人ずつ担当をしていただく形で、ご協力をいただくことになっております。中学生のビデオは、市島委員長のご指導もいただきながら作成ができればと思っております。今日に関しましては現場の先生のお声をいただきながら、こういった物を作っていくと現場として取り入れやすいとか、こういう風なものだったら現場の先生も使いやすいとか、どういう時間だったら流しやすいなど、なるべく現場の先生方のお声とか普段子どもと関わってくださっている司書さんのご意見をいただきながら11月に向けての計画が本日作れたらと思っております。</p>
市島委員	<p>それではレジメのほうにありますように今の国本先生のご提案いただいている中身について一つ一つ具体的に進めてまいりたいと思います。 まず現場の子どもたちは、それぞれの校種によって集中できる時間があると思えます。私は中学校専門ですので、幼児課さんにもご協力いただいて時間の設定もできればよいのかと思っております。また、テーマにおいても、初の取組ですので、どの学年、どの校種においても時間、夢など大きなテーマを決めてそれに基づいたサブテーマを決めてそれぞれが作成するのも一つの方法かと思えます。あるいは、それぞれの校種にお任せすることもありかと思えます。テーマについてもご意見いただければと思えます。3点目の役割分担については、委員のメンバーお一人お一人にご参加いただいて、「みんなで作り上げたね」という雰囲気、結果を出していければと思っております。今後の見通しとして、今年度これがうまくいき、いいビデオが完成すれば、また来年度も継続していてもいいのではないかと思いますし、コロナ禍の緊急事態なので今年度だけの取組にして終わってもいいかと思います。その辺りのご意見もいただければと思えます。それでは、時間から行きたいと思えます。</p>
辻委員	<p>そもそもなのですが、ブックトークビデオをやる目的は何でしょうか。どういう部分へのアプローチなのでしょう。そういう経緯でブックトークビデオになったのでしょうか。</p>
市島委員	<p>昨年度末の会議のなかで、「こういったものが作ればいいな」と意見がまとまりま</p>

	<p>した。なぜなら、先ほどのご報告にもありました通り、コロナ禍でブックトークを待っているのに来てもらえなかったという現場の声があります。それと、小学校さんでは年に2回必ずブックトークを聞き、定着していますが、中学校現場においては、学年の状況によって学校側が実施を判断されるため、なかなか定着されない。少しでも、本が身近に感じられるような取組をすすめていけば、今よりもっと子どもたちは本に目を向けるようになってくれるかもしれない。そういう願い等があって、ブックトークビデオ、本の紹介ビデオが作れるといいねということで、話が終わったと思います。一度、ビデオ作成について話し合いましょうとなって、委員が集まるように日程調整があったと思います。そこで、「やりましょう」となって、今回の会議に至っていると思います。</p> <p>国本先生から補足はありますでしょうか。</p>
事務局	<p>昨年度は、ポスターなどの啓発に終わっていたのですが、そこから一步前に進めたらと思ひまして、委員会の中でブックトークビデオについてお話しいただきました。その後、委員会とは別で担当者の先生方にお集まりいただいて具体的な方向性をお話ししていただきました。私と、学校教育課の前担当者、近江八幡図書館の司書さんと館長、市島委員長、工藤副委員長にお越しいただいて、今回の取組について取り組んでいこうとなりました。</p>
市島委員	<p>ということですが、納得いただけましたか。</p>
辻委員	<p>これは、ブックトークをすることが目的ですか。</p>
市島委員	<p>いいえ、本を子どもたちに提供していく。そういった場を設けることが目的です。</p>
辻委員	<p>それは何の目的ですか。</p>
市島委員	<p>それをやることによって、日頃本を読まない子どもが興味ある本に出会えて、本を手取る。ブックトークを終えた後の子どもたちの様子を見ると、小中学校ともに、その本を読みたいと図書館に足を運ぶ子どもがいるとよく聞きます。ただ、委員が直接現場に行くことが難しいですし、それならば一本のビデオを作成し、一斉に読書月間にむけて流すのはどうかと考えていきました。学校によって違いがあるよりも、一斉に同じことをやってみるのはどうか、そしてその結果を見てみようということです。図書館にあまり足を運ばない子どもたちが、どうすれば図書館に目を向けてくれるのだろうか、いつも話題にあがります。</p>
世古委員	<p>図書館というよりも、やはり本を子どもたちに興味を持ってもらったり、「わあ、なんか面白そう」と思ってもらうには、直に本を紹介したり、本を読んであげたりすることが軸になるかと思ひます。ブックトークで6冊か7冊の本を紹介するとその中に一冊はその子にとってぴったりくる本があります。難しい本や面白い本、ノンフィクションからフィクションの本を織り交ぜて紹介し、どの子にも「あの本読んでみたいな」と思ってもらうにはどうすればいいのか考え、いつもブックトークをさせてもらっています。紹介した本に予約がつくこともありますし、「図書館に行ってみてみたいな」という子が増えるのも事実で、それをきっかけに図書館に来てもらいたいという思いがあります。それが去年度はなかったもので、今年度はやりたいなと思ひています。本来なら、対面でお話をしたり質問を受けたりするのが一番だと思うのですが、行けないというマイナス要因が一番あるので、少しでも前に進めるために、去年度ビデオの作成の話が出たと思ひております。</p>
市島委員	<p>その根底には、子どもたちの心を動かす、耕すという部分が大きいと思ひます。</p>
辻委員	<p>今言われた通り、本当は生で伝えたいです。そこで、ビデオになったときにどれくらい聞いてもらえるのかなとは思ひます。</p>
市島委員	<p>生の反応がほしいという思いもありますよね</p>

工藤委員	私は1・2年生にお話を読むということですが、ビデオにするとテレビでやっているのと同じでどうなのかなど。生ですと表情を読みながらするので、違いがありますし、我々メンバーの中では、「頼まれれば行くのに」という反応がありました。
市島委員	でも、学校現場では密な状況を気にされるところがあります。その中で、昨年度は、おはなし会やブックトークがなくなっていますよね。それでもなお「来て下さい」という学校もあります。それはそれぞれの現場の判断です。
大澤委員	ブックトークというのは、生で聞くのが面白いと思います。子どもたちも興味を持ってくれると思うのですが、一番子どもたちが楽しみにするのは、多分担任の先生方やその学校の先生がすすめる本が一番興味を持つと思います。こんなことを言ってなんなんです、私なんか紹介したとしても「誰この人？」となってくるので、小学校の先生のおすすめ本をB5の半分程度で活字にして配るのはどうかと。ま、八幡工業高等学校で勤務していた時に「先生のお勧めです」と書いて配ったこともあります。その方が子どもたちが身近なものとして受け止められるのではないかと思うので、市立図書館は市立図書館でブックトークを作成していただくのは意味があるかと思うのですが、各小学校の所蔵の本もそれぞれ違いますし、子どもたちが身近な先生の協力を得ながら、時間がない中で大変ですが、B5の半分程度で何か月に一回かのペースで、おすすめ本を紹介するのも一つなのかなと思います。
市島委員	他にご意見ありますでしょうか。
辻委員	先ほどのお話を聞いていた中で、ビデオに引っかかっていたのは、生でやることの効果が分かっているが、現実的に難しいからビデオでという選択肢になったと思うのですが、やはり生に近いものをどういう形でできるのか。より心響きやすい方法があると思うんですね。一律で作って見せると、「ブックトークビデオを作って終わり」になるので、そうではなくて、本を紹介するポスターを作るセッションがあり、作ったものをどのようにプロモーションするのかを学校司書含めてできると思いますし、各担任の先生に訴えかけるとか、そういう方法があるので、できるだけ生の感覚を先生や子どもたちが持ってくれるような方法をもっと考えられないだろうかと思うところです。
市島委員	それぞれの立場でご意見いただきたいと思います。学校現場の先生方と連携して新しいことをやるのは、かなりエネルギーがいることだと思いますが、いかがでしょうか。
辻委員	例えば教科書の中で、「〇年生の本棚」といって本を友達に紹介する単元があります。各学年に配当時間が2時間ほどあるので、その時間に本を紹介する活動を提案したり、授業時間の中でできるものを提案するのが現実的だと思います。普段のやっていることに+αで何かをするのではなく、授業の中で少し活用できるようにプランや方法を提案させていただくことはできるかなと思います。
市島委員	それをやろうとしたときに、かなり司書さんのエネルギーが必要かと思われます。今までそれに近いことを考えたりしてきたのですが、学校現場の図書主任さんや司書教諭さん、図書委員会の先生がどんなふうに熱い思いを持って子どもたちに本を届けようとされているのかということに、大きく左右されることではないかと思えます。今までおられた司書さんの話を聞かせてもらい、振り返って考えると、「司書さんがいたら、本探しておいてという揃えてもらえる」というくらいの感覚の学校現場が残念なことに多いと思っています。この子ども読書活動ではこれほどのメンバーが集まっているので、そこをどうやって切り崩していくのが大事だと思います。学校現場の先生方や管理職の先生方とどんなふうに連携していくかによって違ってきますし、今までそういう熱い思いを担当の先生にお伝えしても、なかなかそれが叶わないままずるずる来ているという声もあります。今実際に、司書

<p>辻委員</p>	<p>さん4人いてくださいますが、その辺り今年度は打破したいという思いでいてくださっているのでしょうか。</p> <p>委員長がおっしゃる通りの現状、実情だと思います。仮に、今言った授業の中でできることを投げかけても、何パーセントの心に響くのかということ、そのブックビデオをしたときに何パーセント心に響くのかということはあまり変わらないと思います。影響を受ける人の割合はそんなに変わらないと思います。ただ、それをだしにして、一人でも多くの先生とつながるという意味では、何かアプローチをかけて分かってくれる、やってくれる人が一人でも増えれば、司書側としてはいいのかと思います。</p>
<p>市島委員</p>	<p>もちろんそれは、ブックトークでもおはなし会でも同じだと思っています。ブックトークでは、ほんの2分で書けるアンケートをとります。100%に近い子どもたちが「読みたい」という本を挙げてくれます。ブックトークから時間が経ち、忘れていたとしても、一年後にそういう本が書壇に見つかったときに「これ見たことあるな。一回読んでみよう。」となります。ブックトークやおはなし会はそこで終わってしまうとは思っていません。特に中学校の国語の三省堂の教科書の中に「ブックトークをしてみよう」という学習内容があり、学校の先生はブックトークをどんなふうに作らせるのだろうと思います。それにつなげようと思えば、ブックトークを何回か子どもたちと一緒に見ないといけな。見て聞くことで、「ブックトークって単なる本の紹介ではないんだ。」ということに気が付いてほしいと思っています。そこから、自分が子どもたちに教えていこうとしたときに、次どう行動していけばいいのか、学校の先生も考えられると思うんです。その中で、司書さんと先生のやり取りの幅が広がるのではないのでしょうか。</p> <p>この委員会が、一つの方向に向かって一つやりましょうというものがある方がいいのではないのでしょうか。そこで昨年度考えられたのが、ブックトークのビデオだったんですね。</p>
<p>森恒委員</p>	<p>中学校の国語の教員なんですが、ブックトークは自分でも難しいと思い避けてきた部分があります。見るのは好きなのですが、学校の教員がするより知らない人にやってもらったら、本とも人とも新しい出会いになり、いいのかと思います。中学校の教員では普段と変わらないので、違う大人もいいのかと思います。しかし、ブックトークはテーマがあり、それに沿った本を探し、すごく考えて紹介するのはすごいなあと思い、話術もいるし、それを指導するのが難しいなと思っています。ブックトークビデオもやったことないので、やってみてもいいと思います。最近はYoutubeの動画も見る子どもも増えてきているし、動画なら見てみようという授業で扱ったり、朝読書の時間に流したり、ちょっとした使い方でするのはいいのかと思っていました。それがうまくいかなければ、またやり方を変えていけばいいと思います。本の紹介を聞いてメモをして、図書館に借りに行く子もいると思います。本来は、実際に来ていただいて目の前でブックトークをしていただくことが一番だと思いますが、子どもたちの様子や学級数が学年によって違うなど、ブックトークをしていただきにくい状況もあります。今までブックトークを見た生徒の中には、図書室に行き紹介してもらった本を借りたり、担任の先生が本に興味を持ち始めたので、やってみないと分からないことが多いのですが、やってみてもいいのかと思います。</p>
<p>市島委員</p>	<p>コロナの事情があって、本当は生の声で伝えたいのですが、ビデオという方法を選んだということですね。ビデオでやってもどうかなあという思いもありますし、私たちよりも小学校の先生が少し出てきてくれたりする方がいいのかなと思ったりします。そうすると、すべての小学校に撮影に行かないといけなということになるので、難しいですね。ビデオでどれくらい伝えられるのか分からないですね。</p>
<p>事務局</p>	<p>取り組む上では、学校現場の現状の把握や、いかに取り入れやすい方法にするかが大切です。また例年の課題でもあるのですが、学校によって力の入れ具合がまちま</p>

	<p>ちで、昨年度も金田小学校の取組を見させていただきましたが、それは金田小学校で終わってしまった。せっかくいい取組なのに、それが市内に広がらない。それが私自身が感じている課題です。なので、よい取組を市内の子どもたち全員に届けたい。そのためにはどのようなことができるのか。この委員会は、個々の学校の取組ではなくて、近江八幡市の子どもたちに読書の楽しさをどのように伝えるのか、読書を通して心をどのように育むのかについて考える場です。どうしたら市内の子どもたちに読書を広めることができるのかという視点が大事になるので、今年度については、ビデオをつくるのが一つ有効な手段であると考え、すすめていきたいと思えます。</p>
森恒委員	<p>具体的には、どのように進めていくのでしょうか。</p>
市島委員	<p>最終的には、国本先生が撮影をしてくださいます。実際に実演する人は誰かということがありますね。一人でやるのか、二人、三人でやるのかは、学年によって違っていいと思っています。小学校については、図書館さんで分担も決まっていると聞いています。11月の市民読書月間にビデオを流そうと思えば、10月20日くらいにはビデオが終わっていないといけないと思っています。そして、委員のみんなで映像を共有しないといけないと思います。それにむけて、やることを決めていかないといいないと思います。</p> <p>図書館さんはどのようにすすめようと考えていらっしゃいますか。</p>
世古委員	<p>各学年の担当を決めておきまして、選書の段階で複数名と協力するとは思っていませんでした。もしそうすると、何回も集まっていたかなければいけないので、負担が大きくなるのではないかと考えています。複数でやるのであれば、練習も必要になりますよね。作るのは個人かと思っていました。その途中でご意見をいただきましたと思っているので、リハーサルの手前くらいで、皆さんに見ていただいてご意見をいただければと思っています。</p>
市島委員	<p>基本、小学校の3~6年は図書館の司書さんが作ってくださって、そこに委員さんのご意見を反映する形ですね。</p>
世古委員	<p>学校で希望されるテーマや書籍があるのであれば、シナリオを作る前に言っていたければと思います。</p>
森村委員	<p>本選びを一人でするのは賛成です。複数の人で選ぶとテーマに対して散漫になると思います。テーマについて一人の方がイメージを持たれて、流れを作ってくださいるのがいいのかと思います。複数の方がいろんな意見を出されるのはいいと思うのですが、時間的なことやいろんな制約を考えると、基本的には担当者の方が一人でされるのがいいのかと思います。特に選書に関しては、一人でされるのがいいと思います。</p>
市島委員	<p>私は、全く別の感覚でいます。そういったご意見もいいのかと思います。ということは、小学校は図書館さんにお任せをするという方向なんですね。選書も何も携わらないということですね。</p>
工藤委員	<p>ブックトークのお話がいっぱい出てますが、1、2年生のことも心配です。時間は45分でしょうか。</p>
熊木委員	<p>低学年で45分は長いと思います。</p>
工藤委員	<p>ビデオをどのようなものにすればいいのかお伺いしたいです。</p>
熊木委員	<p>最初、担任の先生が読み聞かせしていただいて、そのあとにビデオの紹介をするのもいいのかと思います。</p> <p>読書月間なのでやりましょうというのと、取り入れてくださると思います。</p>

	担任の先生のおすすめ本のあとにビデオを活用する流れがよいかと思ひます。
市島委員	作成をすすめながら適宜時間設定の変更があつても良いと思ひます。
世古委員	小学3～6年については、45分全部ビデオは聞けないし、実際に行かせていただく授業でも最初に導入があつたりするので、実質ブックトークしているのは30～35分くらいだと思ひます。 それをビデオで30分静かに見ていただけるのかというのは気になります。
市島委員	小学校については、この前の館長のお話では、集中してもらるように小道具を使つたり工夫されると聞いています。
世古委員	先ほどのおはなし会さんのお話を参考にして、「それでは、担任の先生はどんな本を勧めてくれるかな」と問いかけて、担任の先生に一冊勧めてもらうのも、先生も巻き込めて良いのかと思ひます。
市島委員	それもいいですね。 中学校は40分にします。平均8冊ですね。
事務局	ビデオを見るタイミングも、一日の中でいろいろあると思ひますが、どの時間に見てもらふといいでしょうか。
熊木委員	いつも図書館の方が来てくださっていた一時間を使えばよいと思ひます。 来てもらえない代わりに、授業時間の一時間を使ってもらえばいいと思ひます。
市島委員	私が行っている学校では、総合的な学習の時間などでブックトークを見てくださっています。
堀田委員	それは「このようにしてください」といえばして下さると思ひます。今まで一時間使つてブックトークをしていたので、それは学校はしてくれると思ひます。
市島委員	それでは、時間や冊数は決まりました。 今後はリハーサル前後に委員の皆さんに見ていただいて、ご意見をいただくということですね。 中には、シナリオを見ていただいて「私も参加したい」というのもいいですね。 テーマはそれぞれの学年によって違つてもいいですね。 今後の見通しとしては、11月に上映なので、出来上がったものを10月の中旬に見てもらつて、10月の中旬に最終撮りをするのでよろしいでしょうか。
世古委員	ご意見をいただくのであれば、9月下旬くらいがありがたいです。
市島委員	それでは、撮影を10月20日締切りにしましょうか。 皆さんに見てもらふのは9月下旬ごろがよろしいでしょうか。
事務局	学校の行事等もあるので、9月下旬から10月上旬の間に日程調整させていただきます。
市島委員	進捗状況を国本先生に報告していく形にしましょう。 今後ともご協力いただきますようお願いいたします。
事務局	9月下旬から10月上旬にお集まりいただきます。 次回は11月のビデオの鑑賞と4月の子ども読書の日に向けてご意見をいただきたいと思ひます。
市島委員	熱心な話し合いありがとうございました。では、本日の議事は終了しましたので、

事務局	<p>ここで議長の任を解かせていただきます。みなさま、ご協力ありがとうございました。</p> <p>市島委員長ありがとうございました。本日はお忙しい中ご参加いただきありがとうございました。今日出た進捗状況等で諮れていないものはまた2回目の場でご報告できるようにご準備をお願いいたします。それでは皆様お気をつけてお帰り下さい。</p>
-----	--

担当課 ⇒ 総務課